韓国では夫をどう呼ぶか－日本語との対照を交えて－

韓 先 熙

I はじめに

妻は夫をどう呼ぶか、また第三者に対してどう表現しているか。正しい呼び方をするように言われているが、実際、それぞれの場面で適切な呼称を使うということはたいへん難しい。そこで今回は、都市化・産業化が急速に進み、核家族化の比重が高まりながらも依然大家族制度が根強く残る韓国で夫はどうか呼ばれているかを調査してみた。まず、妻から夫への呼びかけ言葉と、第三者との会話で妻が夫を話題にする場合に使う夫の呼称、ならびに使うのが望ましいと思われる呼称などを調べて、日本語との対照を交えて考察する。

II アンケート調査

調査はソウル首都圏に住む主婦 122人を対象に行い、子どもがある人とならない人に分けて年齢の分布を示した。また、二人だけの時に使う呼称と子どもがいるときに使う呼称を分けて示した(表1～表2-1)。

<表1> 年 齢 構 成

	子ども有り	子ども無し	全 体
20 代	5(5.3)	25(92.6)	30(24.6)
30 代	27(28.4)	2(7.4)	29(23.8)
40 代	40(42.1)		40(32.8)
50代以上	23(24.2)		23(18.9)
計 (率)	95名(77.9)	27名(22.1)	122名(100)

<表 2> 妻が夫を呼ぶとき

	二人だけの場合			子どもの前で
	子ども有り	こども無し	全 体	
여 보 (呼び方)	46(48.4)	3(11.1)	49(40.2)	39(41.1)
○○아빠 (パパ)	24(25.2)	1(3.7)	25(20.5)	44(46.3)
○○씨 (氏)	7(7.3)	11(40.7)	18(14.8)	2(2.1)
자 기 (自己)	11(11.6)	10(37.0)	21(17.2)	4(4.2)
보 세 요 (見て下さい)	5(5.3)		5(4.0)	5(5.3)
そ の 他	2(2.1)	2(7.4)	4(3.3)	1(1.1)
計 (率)	95(100)	27(100)	122(100)	95名(100)

<表 2-1> 二人だけの場合の年齢構成

	20 代	30 代	40 代	50代以上	全 体
여 보	3(10.0)	9(31.0)	25(62.5)	12(52.2)	49(40.2)
○○아빠	2(6.7)	6(20.7)	11(27.5)	6(26.1)	25(20.5)
○ 씨	12(40.0)	6(20.7)			18(14.8)
자 기	11(36.7)	6(20.7)	3(7.5)	1(4.3)	21(17.2)
보 세 요		1(3.4)	1(2.5)	3(13.0)	5(4.0)
その他	2(6.7)	1(3.4)		1(4.3)	4(3.3)
計 (率)	30(100)	29(100)	40(100)	23(100)	122名(100)

* 60代以上は数がすくないので50代と一緒に入れ50代以上とする。

(1) 夫への呼びかけ言葉

여보という呼称は、여기보오の縮まった形で、もともと「こっちをみろよ」の意味をもっている呼びかけの言葉である。夫婦間でもっともよく使われ、妻から夫を、逆に夫から妻を呼ぶときにも用いることができる夫婦専用の呼称である。

ここでは、122人のうち、49人(40.2パーセント)も使っていて、韓国での夫婦の呼称として定着度の高いことが分かる。日本語の「あなた」が妻が夫を呼ぶときは使えるが、夫が妻を呼ぶときにはほとんど使われていないのとは異なり^{注1}、夫婦間で互いに使える、かなり平等な言い方だと言える。表2-1に見られるように、20代には少なく、40代の40人中25人(62.5パーセント)や50代以上の23人中12人(52.2パーセント)に多くなっていて、結婚したばかりの夫婦より年を重ねた夫婦によく使われることが分かる。

子どものいる場合といない場合を別々に見ると、子どものない人は여보の比率はかなり減っていて(11.1パーセント)、そのかわり名前に씨(さん)をつけた呼び方が増えている(27人中11人、40.7パーセント)。これは子どものいる家庭では父称が多く使われ、いない家庭では名前を呼ぶ率^{注2}が高く表れた日本の調査と同じような傾向を見せている。

次に多く使われている言葉は○○아빠(○○のパパ)で、子どもの名前を아빠の文頭に置く呼称で、30代から50代以上にかけて多く使われている。これは子どもにたよった子ども主体の呼び方で、子どもの前ではやはりその率ももっとも高くなっている。夫の名前を直接呼ぶのに比べて意味がその分やわらげられる効果がある。

この呼び方には、子どもの名前をつけずに、아빠と呼ぶ場合も含まれていると思われるが、その場合普通、妻の実家の父を指すか、子どもの父を指すのか区別がつかないので用いられることは多くはない。韓国の伝統儀礼研究家の金福吉氏は、아빠の呼び方は、韓国語の言い方が定着する前に日本から入ってきた言い方で、本来の韓国の礼儀に合わないものであると

指摘し使わないようにと述べているが、日本では今でもよく使われている。^{注3}
 韓国では子どもの名前を入れた○○아빠が多く使われているが子どもを中心にし、夫婦対等な立場から言っているもので時と場合を選ばず、どこでも使えると考えられているからであろう。これは、現在の韓国社会の特質を表しているものではないかと思う。

その他、자기(自己)があるが、자기はもともと再帰代名詞が二人称に転じ、さらにまた呼称になったものである。名前に「氏」をつけた呼称とともに、20代を中心とする若者の間でよく用いられている。ただし、この자기については異論もあるが、^{注4}実際20代に36.7パーセントも使用例が見られるように、若い人には抵抗感なく用いられていることが分かる。

「こっちを見てください」の意味をもつ보세요は、30代や40代にそれぞれ1人、50代以上に3人いるが、これは呼称を使わずに目と態度で示し、それが相手に対する敬意の表し方だと思われた昔の用法の影響を受けたもの^{注5}だと思われる。現在、夫婦間の呼称は必要ないと主張する学者もあるが、今回の調査で分かるように、今では夫に対して敬意のこもった呼称を使うよりは、男女の平等感のあるさまざまな呼称を用いることが多いようである。

ちなみに、^{注6}1987年度の徐正洙による調査を見ると、次のようになっている。

<表 2 - 2 >

여 보	○○아빠 (○○のパパ)	자 기 (自 己)	임 자 (所有者)	영 감 (令 監)	合 計
370(65.5)	125(22.1)	58(10.3)	5(0.9)	7(1.2)	565(100%)

この表と、今回の調査と比べると、現在は여보が少なくなり、○○아빠(○○のパパ)はそれほど変わっていない。その代わりに、名前、자기などを使う傾向が強くなり、また、○씨という「氏」をつける呼び方が表れている。年齢別の表がないので比べられないところもあるが、当時と比べ

夫の呼び方が多様になったとも言える。また、임자や영감などの主従関係を表す言葉（Ⅲ参照）より、平等な関係を表す呼び方を求める主婦が増えてきたことによるものではないかと思う。

(2) 第三者に対して夫を指す言葉

夫を第三者に話すときにどのような呼称を用いているか調べるために、次のような質問とアンケート調査を行った。

質問1 夫の上司から家に電話が掛かってきたとき、「今日、夫は遅れると言っておりました」と答えた場合、「夫」の部分をなんと言いますか。

質問2 デパートで店員に対して、「夫の服を選んでいます」と言ったとき、「夫」の部分をなんと言いますか。

質問3 友人に対して、「夫が出張に行った」と言うとき、「夫」の部分をなんと言いますか

質問4 実家の母に、「夫が出張に行ったのよ」と言うとき、「夫」の部分をなんと言いますか。

以上の4項目の結果を示したのが表3と表3-1である。日本では遠藤織枝氏の調査などで主従関係を思わせる言葉として論議的になっている「主人」が圧倒的に多かったが、韓国の場合、夫に対する呼称に多様性が見られる。

まず質問1の改まった場面では、그이(彼)が39人(32.0パーセント)で一番多く、次に○○아빠(○○のパパ)が33人(27.0パーセント)、その次가 남편(男便)が22人(18.0パーセント)である。그이는待遇の表現が多少入っている言葉であるが、上司に身内を敬意を持った言葉で表現するのは、日本語には見られない傾向である。韓国語には「圧尊法」という待遇のきまりがあって(日本で言う相対敬語にあたる)、年上に対しては、身内を低く言うことになっているが、実際はほとんど守られていない。

身分を中心にして尊敬すべきだと思われる人に対しては、話し相手に関

わりなく身内についても敬意を持った表現を用いる。^{注8} そうすることがむしろ相手に対する礼儀だと思われるからである。今回の調査で그이(彼)の使用頻度の一番高かったのもこのためであろう。ここで多く使われているのは上司に対して失礼でなく、夫に対してもある程度敬意を込めて言えるからであろう。

その他、夫を表す남편(男便)が22人(18.0パーセント)である。これは夫を表す語の中で一番古くから使われたもので(Ⅲ参照)、新聞などの文章体でも多く用いられる。この質問の年代の差を見てみると(表3-1)、

40代の40人中19人(47.5パーセント)が○○아빠(○○のパパ)を使い、20代の方は30人中13人(43.3パーセント)が그이(彼)を使っている。これはやはり40代は結婚して、ある程度年月が経っているから子どもの名前を付けた平凡な表現を求めている結果だと思われる。また、若い人が、그이를好むのは、ややあか抜けた感じを与えるからのようだ。

逆に、50代以上では夫을 바깥양반(両班) 23人中5人(21.7パーセント)と呼ぶことが多くなるが、これは夫に敬意を与える言葉であるため、若い世代では好まれず30人中1人しかいなかったのだと思われる。

次に、質問2のデパートにおける表現であるが、남편(男便)の使用が、年齢の差に関わりなく圧倒的に多い。これは、公の場では、自分の感情を入れずに、世の趨勢にしたがい夫を客観的に言おうとする志向の表れと見られる。

남편(男便)とともに目立つのは、주인(主人)の使用である。50代以上の人に1例みられる。주인という言葉自体は1945年の終戦後に日本から流入してきたと言われている。多くはないが、年齢の高い人に使われており、若い世代での使用はほとんど見られない。

質問3の友だちに言うときは、全体的には○○아빠(○○のパパ)に比べ、그이(彼)の使用頻度が多少上回るもののそれほど差はない。使用世代を見るとやはり그이の場合は20代を中心に若い世代の比重が増し(20代30人中15人)、逆に○○아빠の場合は40代の比重が増す(40代40人中19人)。

〈 表 3 〉 話し言葉の中の夫の呼び方

	了バ ○○아빠 (パパ)	ナム 남편 (男使)	クイ 그이 (彼)	ムン 비밀양반 (兩班)	シラ 신랑 (新郎)	シ 씨 (氏)	ア 아범 (父)	チュ 추인 (主人)	ウリ 우리집사람 (50人)	ソ 서방 (書房)	ヨ 영감 (令監)	職位	その他	計
質問1 夫の上司 から電話が かかってき たとき	33 27.0	22 18.0	39 32.0	10 8.2	1 0.8	12 9.8						2 1.6	3 2.5	122名 100%
質問2 デパートで	18 14.8	66 54.1	8 6.6	11 9.0	9 7.4	2 1.6		1 0.8	2 1.6		2 1.6		3 2.5	122名 100%
質問3 友だちに言 うとき	36 29.5	9 7.4	41 33.6	1 0.8	12 9.8	13 10.7			4 3.3		3 2.5		3 2.5	122名 100%
質問4 妻の母に 言うとき	30 24.6		32 26.2		4 3.3	7 5.7	35 28.7		2 1.6	8 6.6			4 3.3	122名 100%

<表 3 - 1 > 話し言葉の中の夫の呼び方 (年齢別) (実数のみ示す)
注7

		20代	30代	40代	50代以上	計
質 問 1	○○아빠(パパ)	3	7	20	3	33
	남편(男便)	5	5	8	4	22
	그이(彼)	13	11	8	7	39
	○○씨(氏)	7	2	2	1	12
	바깥양반(兩班)	1	3	1	5	10
	신랑(新郎)				1	1
	職位		1		1	2
	その他	1		1	1	3
計		30	29	40	23	122名
質 問 2	○○아빠		3	12	3	18
	남편	20	17	18	11	66
	그이	4	3	1		8
	○○씨		2			2
	바깥양반		1	5	5	11
	주인(主人)				1	1
	영감(令監)			1	1	2
	우리집사람(主人)			1	1	2
	신랑	5	3	1		9
	その他	1		1	1	3
	計		30	29	40	23

3	質 問	○ ○ 아 빠	2	7	19	8	36
		남 편		3	4	2	9
		그 이	15	12	7	7	41
		○ ○ 씨	8	4	1		13
		바 깔 양 반				1	1
		우리집 사람		1	2	1	4
		영 감			2	1	3
		신 량	3	2	5	2	12
		そ の 他	2			1	3
		計	30	29	40	23	122名
4	質 問	○ ○ 아 빠	3	10	13	4	30
		남 편					0
		그 이	14	8	8	2	32
		○ ○ 씨	6	1			7
		바 깔 양 반					0
		아 범(父畝)	1	6	15	13	35
		우리집 사람			1	1	2
		신 량	3			1	4
		서 방		4	3	1	8
		そ の 他	3			1	4
		計	30	29	40	23	122名

場合は40代の比重が増す(40代40人中19人)。그이は、質問1の改まった場合での使用の頻度も高かったが、これは그이が改まった感じと用いやすさの両面の性格を持っているからであろう。

ところで、남편(男便)を用いる人はかなり減り、それに代わって名前に日本語の「氏」にあたる○○씨を使う人が13人、신랑(新郎)が12人という結果になった。○○씨(氏)は20代に30人中8人(26.7パーセント)いたが、これは結婚して間もない新婚の夫婦に、結婚前の呼び方の習慣がそのまま残ったものであろう。また신랑についても、結婚したときの言い方がそのまま残ったものであると思われる。普通、신랑は結婚直後の新婦が夫を呼ぶときに用いられるものである。

質問4の実家の母に言うときに目立つのは、아범/에비의言い方である。これは、夫を卑下して言うもので、前にも述べた「圧尊法」にあたる用法である。すなわち、実家の母に対して夫を自分(妻)に属すると見る立場から言うもので、若い人よりは、年齢の高い人の使用の頻度が高い。次に目立つのは서방(書房)である。これは元来、官職についていない若い男性を指すものであったが、しだいに夫の意味を持つようになり^{注9}、これに남(さん)を付けて夫の呼称として定着したようである

現在あまり使われていないが、実家の母に対して夫の呼称として、むこの意味で使われているものと思われる。

Ⅲ 辞書に見る夫の呼称の意味とその用例

前項では、調査を基に、現在韓国で用いられている夫について述べてきたが、ここでは夫についての呼称のいくつかを選び、辞書・小説などをもとに語釈、使用法の変遷を用例に則して考察する。

(1) 夫を呼ぶ言葉

— 여 보 —

これは古い辞書には載っていない。1947年にハングル学会から刊行された『큰사전(大辞典)』には、「여보시오のやや卑語」と記載されており、

1965年の『**새한글사전** (新ハングル辞典)』にも同じ語釈が与えられている。ところが1975年に韓国語辞典編纂会による『**큰대사전** (大國語辞典)』には、第二の意味として、「夫婦間でお互いを呼ぶ言葉」が出ている。これをみると1945年の終戦直後から急速に用いられるようになったと見られるが、小説の中では、すでにそれ以前に用例が見える。

여보, 그것이 무슨 말씀이오? 무슨 죄를 그렇게 많이 지으셨단 말이오?
ヨボ、どうしてそう言うんですか。どんな罪を犯したのですか?

(李人種『銀世界』1908)

他にも、この小説においては、**여보**以外にも**여보시오**の例も見える。

여보시오, 그것이 무슨 말씀이오. 쉽게 나올 도리만 있으면 …
ヨボシヨ、どうしてそう言うんですか。たやすく出る方法さえあれば…

これ以外にも、次のように弟が姉に**여보**を使う用例も見える。

여보 누님! 우리나라 이천만 생명의…

おねえさん、わが圈二千万人の…

これを見ると、当時は**여보**が夫婦間だけでなく用いられていたと考えられる。**여보**と**여보시오**の両方が用いられたようであるが、時代を下り1920年代の小説では、夫婦間では、**여보**の使用例は見られるものの、**여보시오**はあまり出てこない。

여보, 용례가 왔소? 용례가 데려다 주구려.

ヨボ、ヨンレ (娘の名前) が来たの。ヨンレをつれてきてくれよ。

(崔曙海『紅焰』1927)

このように、人を呼ぶものであった**여보**がしだいに夫婦間だけで用いられるようになり、それが現代に入り夫婦間での使用にのみ用いられるようになったと考えられる。

— ¹⁴입 ²¹자 —

『새한글사전(新ハングル辞典)』(1965)によると、

- ① 持ち主、所有者
- ② 新しい間柄で用いられる二人称代名詞で、相手と呼ぶ言葉

『대국어사전(大國語辞典)』(1975)によると

- ① 持ち主、主
- ② 上手にあやつることのできる人
- ③ 二人称代名詞
- ④ 夫婦が互いと呼ぶとき用いる

『우리말큰사전(わが言葉大辞典)』(1922)には、

- ① 持ち主
- ② 物、動物を操る人
- ③ 新しい間柄で用いられるもの
- ④ 夫が相手と呼ぶもの

などと書かれている。これらの辞書だけを見ると、元来持ち主や相手に対して使われていたものがしだいに夫婦間でも用いられるようになったものと考えられる。

싫소! 입자나 가구려

いや、あなただけ行きなさい (羅稻香『물레방아(水車)』1925)

ただし、この呼称は主従関係や古くささを感じさせるため、表2-2のように、今ではほとんど使われていない。今回の調査では一例も出てこなかった。

このほか、**영감**(令監)があったが、これは古くから使われていたらしい。1947年の『**큰사전**(大辞典)』には、①歳をとった夫と呼ぶもの、おじいさん ②老人を高めて呼ぶもの ③正三品・従三品の管理の称、などと出ている。これは、最近になりだんだん使われなくなり、年をとった人も最近では**여보**や○○**아빠**を使っている。

(2) 夫を指す言葉

— **남 편** (男便) —

これは、古い辞書や文献に登場することから見て、かなり以前より使われていたようだ。

『李朝語辞典』（延世大学出版部 1964年）に、

① 男性：『月印積譜』（1758年）8：93～94

② 夫：『小学諺解』（1587年）6：75

と書いてある。元来、「男子」の意味が「夫」の意味を持つようになり、現在では代表的な夫の呼称の一つであり、書き言葉のなかではほとんどの言葉が用いられている。

— **주 인** (主人) —

これは、日本でもっとも頻繁に用いられる夫の呼称である。^{注7}しかし、つとに指摘されているように、この言葉は「ぬし、支配する者、頭、中心となる者」という意味を持っており、夫婦間の関係が対等だとの意識を持っている者にとって、使いにくい言葉である。

韓国においては、よく用いられる「主人」の意味は、「夫」ではなく、「一家の主」「所有者」の意味で用いられている。

주인은 듣지 못한고로……

主人は きけなかったために…

(李人植『銀世界』1908)

1960年代までの辞書には、

- ① 一家の主
- ② 持ち主
- ③ (客に対する) 主人・主
- ④ 雇い主

などの意味しかなかったが、1975年の『**대국어사전** (大國語辞典)』には「夫」の意味が加えられている。

これは、昭和28、29年頃に「夫」の意味が加えられた日本語の「主人」

の影響であったと思われる。ただし韓国の場合、日本のようには「主人」が広まることはなかったが、それは「主人」という言葉が広まる以前にすでに**남편**のような言葉が定着していたため、あまり浸透しなかったからであろう。

— **바깥 양반** (兩班) —

夫を指す言葉として、○○**아빠**、**그이**、**남편**、の次に目立つのが**바깥 양반**である。これは**양반** (兩班) とその意味の**바깥**がついて夫の意味になったものである。**양반**は、高麗・李氏朝鮮時代の文官 (東班) と武官 (西班) を併せたもので上流階級や男性の立場を高めて言うようになったものである。夫の意味で使われるようになったのはそれほど古いことではなく、1970年代の辞書にも夫の意味はなく、「夫を高めて言う語」の意味が辞書に登場したのはそれ以降のことになる。夫に対して敬意を込めて言うとき使われたようで、やはり若い人はあまり使ってはいない。主従関係を思わせ、そのうえ古風な感じを与えるためだろう。

IV 相手の「夫」の呼び方

いままで、夫を呼ぶときや、他人との会話で夫をどう表現しているかを調べてきたが、相手の「夫」をどう呼んでいるかを、やはり同じ主婦 122人に聞いたみた。その結果をまとめたのが、表4である。

質問は、話し相手に、「夫の名前はなんですか」とたずねる場合に、「夫」をどう述べるかである。

全体的には、○○**아빠**と**바깥 양반**が多い。20代には○○**아빠**と**남편**が同じく30人中8名 (26.7パーセント) で最高位であり、30代では○○**아빠**が29人中9人 (31.0パーセント) で最高位となっている。

中でも、最も高い頻度を示したものが、**바깥 양반**である。30代で29人中7人 (24.1パーセント)、40代で40人中14人 (35パーセント)、50人以上の場合23人中8人 (34.8パーセント) も使われている。

すでに述べたように、**양반**という言葉には夫を高める意味が入っているの

で、話し相手の夫に対して使われているようである。また、**주인**も20代、30代での使用は1回もなく、40代、50代以上にそれぞれ2回と4回となっている。これをみると、韓国では若い世代ほど、対等なひびきをもつ言葉を選び、**양반**や**주인**のように妻が夫の所有物ないし従属関係をもつような呼称の使用を拒んでいると思われる。

<表 4> 相手の夫の呼び方

	20代	30代	40代	50代以上	計
○ ○ 아빠 (パパ)	8(26.7)	9(31.0)	11(27.5)	4(17.4)	32(26.2)
남편 (男便)	8(26.7)	8(27.6)	3(7.5)	5(21.7)	24(19.7)
그 이 (彼)	1(3.3)				1(0.8)
○ ○ 씨 (氏)	2(6.7)	2(6.9)	5(12.5)	1(4.3)	10(8.2)
주인 (主人)			2(5.0)	4(17.4)	6(5.0)
바깥 양반 (兩班)	4(13.3)	7(24.1)	14(35.0)	8(34.8)	33(27.0)
신랑 (新郎)	6(20.0)	2(6.9)	3(7.5)		11(9.0)
その他	1(3.3)	1(3.4)	2(5.0)	1(4.3)	5(4.1)
計	30(100)	29(100)	40(100)	23(100)	122名(100)

V 一番望ましいと思われる夫の呼び方

最後に、自分は使っていないくても、一番望ましいと思われる夫の呼び方を次の4項目に分けて答えてもらった。

- ① 夫を呼ぶとき
- ② 話し相手の夫を呼ぶとき
- ③ 父母に対して夫についてふれるとき
- ④ 友だちや目下に対して夫についてふれるとき

①については**여보**が圧倒的に多い。現在は使っていないくても、いつかは使いたいという願望が含まれていると思われる。

<表 5> のぞましいと思われる呼び方

	ヨ ま 여보 여보 (呼び方)	ナム 남편 (男便)	○○아빠 ○○아빠 (パパ)	그이 그이 (彼)	바깥양반 바깥양반 (同班)	아범 아범 (父)	자기 자기 (自己)	씨 씨 (氏)	신랑 신랑 (新郎)	주인 주인 (主人)	서방 서방 (書房)	영감 영감 (令監)	아버지 아버지 (お父様)	특별사 특별사 (特別人)	無甚記	その他	計
1. 夫を呼ぶと き	78 63.9		14 11.5	3 2.5	1 0.8		5 4.1	13 10.7						1 0.8	5 4.1	2 1.6	122名 100%
2. 相手の夫を 呼ぶとき		11 9.0	47 38.5		20 16.4			21 17.2	4 3.3	3 2.5	1 0.8		1 0.8		7 5.7	7 5.7	122名 100%
3. 父母に夫を 言うとき		23 18.9	13 10.7	16 13.1	5 4.1	39 32.0		3 2.5	5 4.1		1 0.8		1 0.8	1 0.8	6 4.9	9 7.4	122名 100%
4. 友だちや 目下と言う とき		23 18.9	27 22.1	33 27.0	6 4.9			4 3.3	12 9.8			1 0.8	1 0.8	2 1.6	7 5.7	6 4.9	122名 100%

②話し相手の夫を呼ぶときは、○○아빠 (○○のパパ) が47人 (38.5パーセント)、바깥양반 (両班) が20人 (16.4パーセント) の比率を示している。相手に敬意を込めて言うよりは、より用いやすい○○아빠が好まれているということになる。

③自分の父母に夫のことについて言うときは前の調査と同じように、아범 (夫を卑下した者) が多く、次いで남편 (男便) となっている。この中で、아범を使うという人はやはり年齢の高い人である。

④友だち、目下に言うときは、○○아빠、그이、남편の比率に大差がなく、バラエティーに富んでいる。要するに相手の年齢の変化に従い夫の呼称を変えていっているのである。結婚直後は그이などを使うが、子どもの誕生ならびに成長に伴い○○아빠を好んで使うようになると思われる。

VI おわりに

以上、夫の呼称についてアンケート調査や辞書の語釈をもとに考えてみた。場面によって、呼び方がそれぞれ異なるが、場面よりも世代によってその傾向が異なるということが分かった。

夫を指す呼称として、20代の人はその이や名前に「氏」をつけた呼び方を好み、30代や40代の人はその○○아빠 (○○のパパ) の比率が高い。年齢が高くなるにつれて夫に敬意をこめて言ったり、主従関係を表すような呼び方も多く見られる。呼びかけの場合も同じような傾向が見られる。

言い換えれば、最近の人は、できるだけ平等な呼称を求めていると言えるが、必ずしもそうだと言い切れない面もある。日本で自分の夫を「主人」と言ったり、相手の夫を「ご主人」と呼ぶのは、主従関係の表れと言うよりは、ほかに適当な言葉がなかったり、習慣で使う場合があるからである。韓国で若い人が主従関係の言葉を避けようとしていることが、日本より女性の意識が進んでいることにつながるとは言えない。ただ日本より呼び方の種類が多くて、若い人が選んで使うことのできる幅が広いとも言える。実際、どれを使うか分からないという人も多かったのである。

言葉を通して、その背景にある社会や文化を見つめ直すことは大切なことだと思うが、今回の調査で韓国の主婦たちは、夫の呼称は夫婦対等な立場から互いに尊敬し合うことのできるものを使いたいと言い、男尊女卑の考え方は改められなければならない、という意見が多かった。最近の韓国の女性はわずかずつではあるが、旧来の男尊女卑の社会制度を否定し、女性が無視されてきた封建思想を引きずる社会から脱皮しようともがいているところなのではないかと思われる。

<参考文献>

注1 「夫婦の呼び方」—アンケート調査の結果から— 米田正人

言語生活 416 (1986年 7月号)

注2 “ ”

子どものいる家庭では約半数が使い、特に子供の前では8割近くが父称を使っていると報告されている。

注3 『우리말의예절』(わが言葉の礼儀)—朝鮮日報社— 1991.12

注4 “ ”

金福吉氏は反対し、朴甲洙氏は賛成している。この言い方が広まったのは1970年後半からである。

注5 『우리말의예절』(わが言葉の礼儀)—朝鮮日報社— 1991.12

呂曾東、姜信沆氏は呼かけの呼称は入らないと主張している。

注6 『존대법의연구』(尊待法の研究)—徐正洙 한신文化社— 1984. 4

注7 表作成にあたっては遠藤織枝『気になる言葉』(南雲堂 1987)を参考にする。

注8 『존대법의연구』で그이는自分の夫を高める言い方で、まちがっていると指摘している。

注9 —『우리말의예절』—古代小説『春香伝』や『沈清伝』に夫の呼称の例が出てくる。

1886年 日本の明治小説『雪中梅』(末広鉄腸)を訳した具然学の

同盟小説（1909年）には、主人公 国野（若い男性）を呼ぶ「旦那」の
訳に서방님이あてられる。

注10 韓国開化期文学叢書 I 『新小説・翻案小説 3』—亜細亜文化社—

これは新小説である。20世紀の初めに登場したもので、古典と現代小説
の中間の性格を持っているものである。

（祥明大学）